

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0176400372		
法人名	(株)マルベリー		
事業所名	グループホーム ぬくもりの家 2F		
所在地	留萌市開運町3丁目8-3		
自己評価作成日	平成23年6月17日	評価結果市町村受理日	平成23年8月26日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://system.kaigojoho-hokkaido.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=0176400372&SCD=320
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	江別市大麻新町14-9 ナルク江別内		
訪問調査日	平成23年 6月30日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ぬくもりのある暖かい家族の付き合い。ご利用者様一人ひとりが自由な時間を過ごして頂くよう、食事以外の時間の制限を一切行っていない。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

留萌市の中心部(旧繁華街)にある5階建ての建物(ぬくもりの家)で、1階にデイサービス、2階3階がグループホーム、4・5階がシルバー向けのマンション(共同住宅)になっている。食堂と居間は一緒になっていて採光も十分で、入居者同士が自由に交流できるよう、広々とした空間を設け落ち着いた雰囲気にもなっている。「ぬくもりのある生活」を理念に掲げ、職員は明るくチームワークも良い。毎月『ぬくもり通信』と共に家族へ一人ひとりの利用者の1日の出来事をまとめて報告をし、家族との関係を密にしている。職員研修は経験年数ごとに年間の研修計画を立て、職員が受講しやすい環境作りをして、全員でレベルアップを目指し、サービスの質の向上に努めている。職員の異動も少なく、利用者との会話も和やかで、お互いの信頼関係が保たれている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ぬくもりのある生活を中心に「癒し」「地域交流」「安心」「笑顔」「元気」「仲間」の六つの理念を考えている。その理念を各ユニット入り口に掲げ、日々のサービス提供に活かせるよう努めている。	これまでの生活と同じように、施設内でも「ぬくもりのある生活」を営むことを利用者の皆さんと共有できるよう、設立時に職員みんなで考えた理念で、入口に利用者が上手に六つの言葉を筆で描いたものを展示している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入し、町内会行事の元気祭や近所の幼稚園の運動会の見学に参加している。	2つの町内会に加入している。商店街は、定住者が少なく、役割分担の部割も限られて日常的な活動は無く、お祭りが主な行事でもある。幼稚園の運動会の総練習を16名の利用者が見学し、その時に紙で作ったラッパのホーンを提供し、園児に喜ばれた。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	運営推進会議等で認知症についての理解を深めるよう、勉強会を行っている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年度は5月、7月、9月、11月の4度開催し、状況報告を行い、意見交換し、サービスの向上に努めている。	東日本大震災発生後の推進会議で、災害時の対応について、疑問要望が出され、意見交換から施設として詳細に取り組む事項の整理をすることになった。	運営推進会議は、家族等が参加し易い日程を設定し、年6回以上開催するよう期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市の担当者、ケアマネジャーには、施設長、管理者が訪問し、事業所の実績やケアサービスの取り組みを積極的に行っている。	施設長・管理者は定期的に、市の健康福祉部へ足を運んで情報交換している。市内の同業者との連携も依頼し、次第に実現されてきている。市内の施設に「健康の家」という訓練施設があり、ここで歩行運動や老人体操にも参加している。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束などの研修に参加し、それをフィードバックし、職員で理解を深めている。	福祉関係機関での「身体拘束・虐待防止」の研修は新任者は必須で、受講後報告を兼ねてミーティングで理解を深め、入居者の施設内での行動にはほとんど干渉せず、見守る心構えが取られている。	

グループホームぬくもりの家2F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	月に1回安全会議を開催し、事故や虐待などについても話し合い、知識の向上を図り、防止に努めている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	施設長が成年後見人制度の研修に参加し、ご入居者様の一部特殊生活者において、行政書士と連絡を取り、後見人や代理人についての相談を行っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用契約書、運営規程、重要事項説明書を通じて、ご入居者様や御家族様、関係者に十分な説明を行っている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会の場で意見や要望を受け入れたり、意見BOXを設置し、要望を受け止め、運営に反映させている。	利用者と身近に関わっており、家族にも毎月近況を兼ねて現状報告をし、家族の訪問時にも話し合いを行い、意見要望を受け止める機会を設けている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回ユニット会議、又は現場での意見交換を常に聞き入れる機会を設け、反映させている。	ユニット会議以外にも個々に面談するよう施設長は配慮している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	月に1回の全体会議で概要の説明を行っている。また年に2回以上個人面談、懇談会を行い、意見交換の場としている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員は各個人で、半期ごとに目標を設定し、それをもとに、一人ひとりの力量の把握に努めている。また働きながらの現任者研修なども行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同市内のケアマネジャーを中心に交流する機会を作り、見学などを行い、サービスの質の向上に努めている。また他都市(旭川市、小樽市、札幌市、富良野市)の交流も行っている。		

グループホームぬくもりの家2F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入院、在宅問わず、相談から入居までの間に何度も面談・面会を行い、ご利用者様のニーズの把握に努めている。また、信頼関係を構築しご利用者様が安心して、入居できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にも上記同様にアプローチを行い、信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご利用者様、御家族様の意見を受け入れ、デイサービスや高齢者マンションの存在を示し、選択肢の幅を提供している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご入居者様とゆっくり話す時間を増やしコミュニケーションを図っている。会話や行動を読み取り、力を発揮できるように努めている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご入居者様の状況報告を常に行い、月末には、一日の様子をまとめた文書を送付し、家族とともに支えあえるように努めている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会時間などには、制限は一切なく、誰でも面会ができるよう支援している。また、面会時などは、居室でゆっくりお話して頂く環境を整備している。	開設時は友人知人の訪問もあったが、最近は家族が主になってきた。利用者の希望を聞いても馴染みの人や場所への外出は無くなっている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事などの席の工夫を行い、孤立がないように努めている。気が合う方などでお話をして頂き、職員が間に入り、傾聴にも努めている。		

グループホームぬくもりの家2F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	利用契約が終了した方には、行事などの通信を送付したり、ご相談に応じる体制を作っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人、家族の話を傾聴し、暮らし方の希望や意向の把握に努めている。	外出希望者には職員がマンツーマン対応をして、利用者の思いや意向の把握に努め、日々のケアに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人、家族や関係機関に話を聞き、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の様子を介護記録等に記入を行い、色々な側面から、入居者様の現状の把握に努めている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ケアマネジャーが中心になり、本人や家族、関係者と話し合い、それをケアマネ、職員が検討し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアマネジャーは毎日の個人記録を基に、変化が認められた時は、その都度介護の見直しをしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎月ユニット会議、ケアカンファレンスを行い、情報を共有し、計画の見直しに努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	遠方に住んでおられる家族や面会が少ない家族の方には、施設長、管理者が出向き、現在の状況を説明し、柔軟な支援やサービスの多機能化に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ぬくもり畑での農作業を行い、本人が心身の力を発揮して頂けるよう努めている。また近所の幼稚園の運動会に参加し、支援を行っている。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	月に2度の往診を受けている。また、緊急時は昼夜問わず、電話連絡にて指示を受けている。	近くの医院と提携し、月2回往診を受けている。利用者の以前のかかりつけ医とは、遠距離のアクセスもあり、徒歩で行ける提携医に変えている。緊急時のマニュアルも提携医と作成し、指示を受けている。	

グループホームぬくもりの家2F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	職員は、入居者様に何か変化があった場合に施設内の看護師に相談したり、指示を仰ぎ適切な受診や看護を受けられるように支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	病院関係者に状況を聞き、情報交換に努め、早期に退院できるよう促しを行っている。施設長、管理者が病院などに訪問し病院関係者との関係作りを構成している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	施設長、管理者がターミナル研修に参加し、それを現場職員で勉強会を行い、終末期ケアに向けた方針の共有に努めている。また運営推進会議等で家族との話し合いも行っている。	施設のトップが終末期の在り方について、各種研修会に参加し、全職員と前向きに取り組む意向を強めている。重度化や終末期の対応については、本人・家族等への説明に努めているがまだ十分でなく、支援の方針が明確にされていない。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命講習を受けて、実践力を身につけている。また、急変時には冷静な対応ができるよう、職員間で声かけを行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	春、秋には防災訓練を実施している。現在避難マニュアルを作成しており、地域の方に呼びかけを行っている所である。	過去に水害に見舞われた地区で、その対策について、避難経路や避難場所を分り易くまとめたマニュアルを作成中である。推進会議で、東日本大震災の教訓から問題点が提出され、安心・安全について基本から取り組む姿勢がある。	夜間・冬の災害発生を想定した訓練も実施するよう望む。2・3階の歩行可能な利用者だけの避難だけでなく、4・5階の入居者も含めた「ぬくもりの家」全体での訓練を期待する。屋外の階段があり、ここからの避難には、個人的な支援が必要になり、地域住民の協力と支援が得られる取組を望む。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入居者様に対しての言葉使いは、月のユニット会議で再度考えている。現在は、入居者様の呼び名を名字で呼ぶよう、統一を図っている。	地元の職員は「浜言葉(訛り)」を使うことがあり、聞く人によってはやや乱暴に聞こえるが、人格の尊厳について職員の意識が改善しつつある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の自主性を尊重し、個々の希望を聞けるよう職員は業務中心になり過ぎないように気を配っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	全て個人設定を行い、入浴等希望にそった支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人の希望する理美容室の援助を行い、その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している。		

グループホームぬくもりの家2F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事内容の工夫に努めている。個々の好き嫌いを聞き、嫌いなものはなるべく提供しないように心がけている。	昼食は、1階に開店している食堂で調理している。外部の提言を受け、最近では職員と一緒に食卓に着いている。自分の弁当を食する職員もいる。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	水分、食事量を毎食チェックし、自力摂取が難しい方には、食事介助等を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	就寝前には口腔ケア、入居者様によっては、毎食後うがいや歯磨き、毎日義歯の洗浄を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表に記入し、時間をみてトイレ通所の声かけを行っている。	一人ひとりの排泄パターンを記録し、個々の支援をしている。夜間は数人オムツで対応しているが、間隔が短い利用者には、自立に向けた対応を検討している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	歩行できる入居者様には、毎日歩行訓練の促しを行っている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	体調面に配慮しながら、本人の希望にそった支援を行っている。また、入浴回数の制限はしていない。	利用者の意向に添った入浴をしている。同性介助をしているが、その日の都合で異性になった時は、了解を得られるよう努めている。週2～3回の利用が多い。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の温度調節や電気の調節を行い、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。また、布団やベッドは統一していない。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	誤薬がないように気をつけながら、服薬介助に努めている。何か変化がある場合には、早急に医療機関に相談を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	お手伝いができる方には、お手伝いをして頂く。昔の遊びを多く行い、気分転換して頂くよう努めている。		

グループホームぬくもりの家2F

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	散歩やドライブまたは、近所のスーパーに買物に出掛け、戸外に出られるように支援している。また、家族と外食などができるよう、支援している。	外出希望者には職員がマンツーマン対応している。イチゴ狩りや秋の果樹園へのドライブ、診療、買い物など外出支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物援助を行い、本人にお金を支払って頂くよう支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族、友人等からの電話や手紙の取次ぎを行っている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関前には季節によって色々な飾り物を飾り、明るい環境を作るよう努めている。また、居室内には行事の様子を写した写真も貼っている。	食堂と居間は一緒になっていて、採光も十分で、落ち着いた雰囲気にも包まれている。トイレは3ヶ所あり、夜間の利用しやすさに配慮している。風呂は二人が入れる広さがあり、職員が入浴介助している。灯油ボイラーの集中暖房で安全を確保している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	よく会話をされる方の席と一緒にして、思い思いに過ごせるよう、工夫に努めている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内にはあえて新しい物を買って揃えるのではなく、今まで使用していたベッドや椅子を使用いただき、居心地良く過ごせるように工夫している。	居室にテレビを持ってきた利用者、小さな筆筒の上に孫の写真を飾っている部屋もある。大半が広くゆったり過ごせる空間を持って居心地良く過ごせるよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の安全面に配慮し、過剰介護をしないよう、自立支援を大切にしている。		